

2022年度 学位授与の方針(学生が身に付けるべき資質・能力の目標)に照らした学修成果に関する検証

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学修成果の把握(学科／研究科専攻の学位授与の方針)」のデータを活用した検証です。
各学科・研究科専攻の学位授与の方針(学生が身に付けるべき資質・能力の目標)については、本学ホームページの「教育方針」(下記のURL)をご覧ください。
<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

学科・研究科専攻名 福祉心理学科

調査項目は以下の7項目である。

①多文化共生社会における総合的な人間理解力

ディプロマ・ポリシーに記載された「多文化共生社会における総合的な人間理解力」の3項目

- (1) 人の心には、人々に共通する心の特徴(一般的原理や法則)と、人それぞれの心の特徴(個人差や多様性)があることを理解できる
 - (2) 人の心と行動は、社会・環境と相互に影響しあっており、社会・環境の影響で変わることが理解できる
 - (3) 生活場面における人の心と行動について、心理学および隣接領域も含めて、さまざまな観点から幅広く総合的に理解できる
1. 人の心と行動には人々に共通する特徴と人それぞれの特徴があることが理解できない
 2. 1のことは理解できるが、それが社会・環境の影響で変わることが理解できない
 3. 1と2を共に理解している
 4. 人の心と行動を心理学と隣接領域の知見から一般的に理解することができる
 5. 具体的な生活場面での人の心と行動を複数の観点から総合的に理解することができる

②根拠に基づく情報発信力

ディプロマ・ポリシー「根拠に基づく情報発信力」の2項目

- (1) 心理学の方法(文献検討、観察、実験、調査、面接等)を用いて、客観的なデータを集めることができる
 - (2) 心理学の方法で得たデータを、図や表を用いて整理し、他者にわかりやすく伝えることができる
1. 図や表を用いてデータを整理することができない
 2. 1はできるが、心理学の方法を用いてデータを集めることができない
 3. 心理学の方法を用いて集めたデータを図や表を用いて整理できる。
 4. 1と2に加えて、効果的なプレゼンテーションをすることができる。
 5. 4に加えて、効果的及び独創的なプレゼンテーションをすることができる

③批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力

ディプロマ・ポリシーに記載された「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」の2項目

- (1) 多様な生活場面における人の心と行動を適切に把握して分析し、より本質的な問題に気づくことができる
 - (2) さまざまな分野の知識を柔軟に組み合わせ、多様な他者の気持ちや意見を考慮し、予防策や解決策を見出すことができる
1. 生活場面における問題を発見することができない
 2. 生活場面における問題には気づくが、問題点を明確にすることができない
 3. 生活場面における問題に気づき、問題点を明確にすることができる

4. 生活場面における問題を明確にし、予防策や解決策を見出すことができる
5. 予防策や解決策を見出す際に、さらに他者の気持ちや実行可能性も考慮できる

④多様な人々への共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力

ディプロマ・ポリシーに記載された「多様な人々への共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力」の2項目

- (1) 他者の気持ちや意見を共感的に理解し、対話のなかで理解を深めることができる
 - (2) 他者の気持ちや意見を尊重しながら、自分の気持ちや意見を適切に表現できる
1. 他者の気持ちや意見を共感的に理解することができない
 2. 他者の気持ちや意見を共感的に理解することができる
 3. 他者の気持ちや意見の理解を、対話を通じて理解をさらに深めていくことができる
 4. 他者の気持ちや意見を理解をしつつ、自分の気持ちや意見もある程度表現できる
 5. 他者の気持ちや意見を尊重しながら自分の気持ちや意見も適切に表現できる

⑤自己理解に基づくセルフコントロール力

ディプロマ・ポリシーに記載された「自己理解に基づくセルフコントロール力」の3項目

- (1) 自分の気持ち、考え方、行動とそれらの特徴に気づくことができる
 - (2) 怒りや不安等の自分の感情に気づき、ストレスに対処することができる
 - (3) 自分の成長につながる目標を立て、やる気(モチベーション)を高めることができる
1. 自分の怒りや不安等の気持ちや考え方・行動の特徴をまったく把握していない。
 2. 1は把握しているが、コントロールしようという意欲に欠けている
 3. 1を把握し様々なコントロール法を用いようとしているが、十分には使いこなせない
 4. 3の内容ができており、さらに必要に応じてやる気を高めることができる
 5. 4に加えて、さらに目標をさだめて計画的にやる気をコントロールすることができる

⑥集団理解に基づく対人調整力

ディプロマ・ポリシーに記載された「集団理解に基づく対人調整力」の3項目

- (1) 集団の目標を共有し、役割を分担し、取り組む課題を明確にすることができる
 - (2) 集団で情報を共有し、メンバーのやる気(モチベーション)に気を配り、自由に意見を出してもらうことができる
 - (3) メンバーのやりがいや喜びを共有し、メンバーの取り組みを前向きに評価できる
1. 集団の情報・目標や集団が抱える課題を共有することができない
 2. 1はできるが、集団内での役割分担を明確にすることができない
 3. 集団の情報・目標・課題・役割分担を共有して活動できる
 4. 3に加えて、集団の他のメンバーにも気を配って活動することができる
 5. 4に加えて、他のメンバーとやりがいや喜びを共有することができる

⑦多文化共生社会における心理学の学びを活かした社会貢献力

ディプロマ・ポリシーに記載された「多文化共生社会における心理学の学びを活かした社会貢献力」の2項目

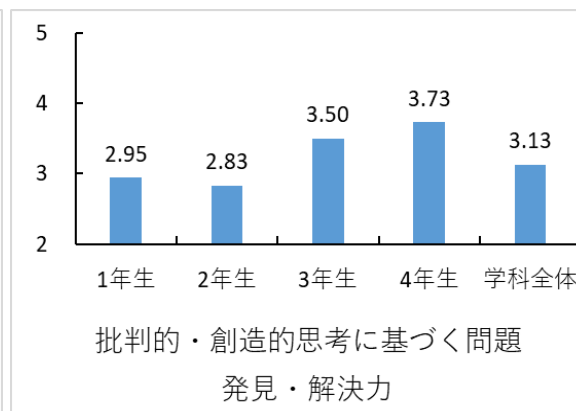
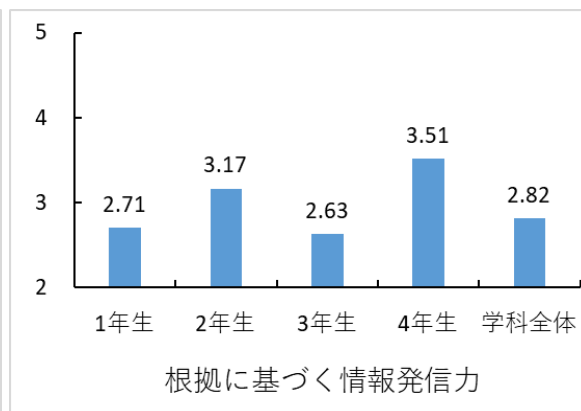
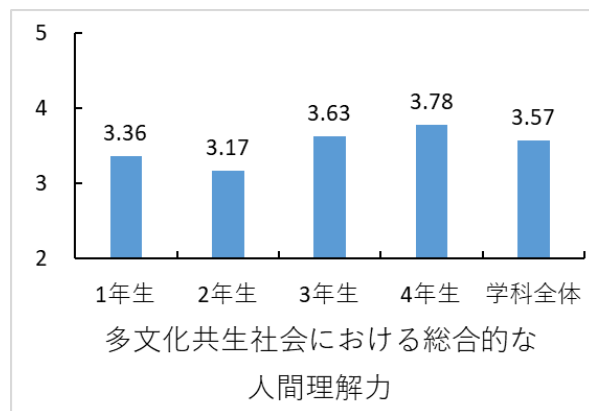
(1)これまでの学びを統合して、人々の幸せや福祉に貢献することができる

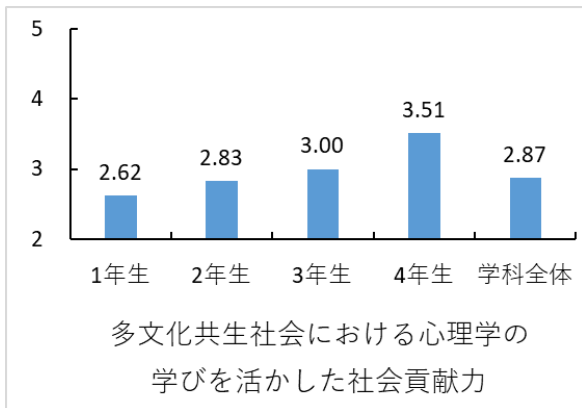
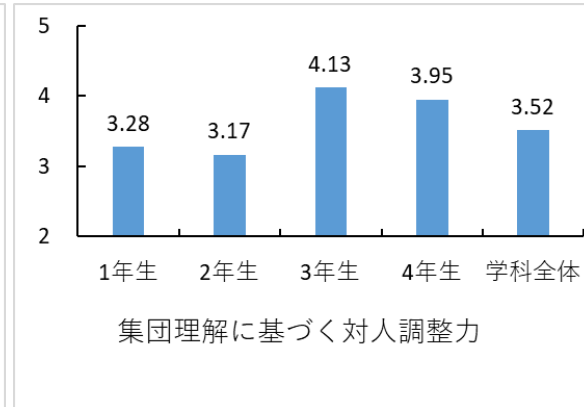
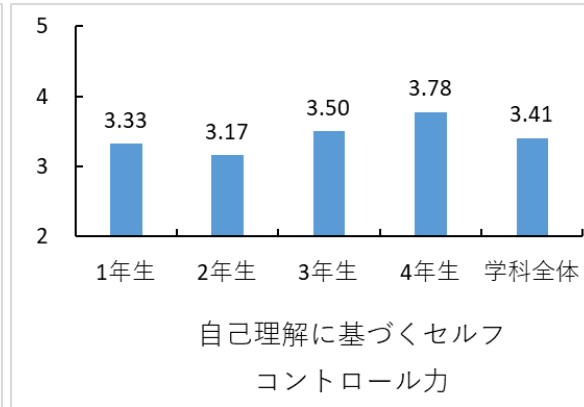
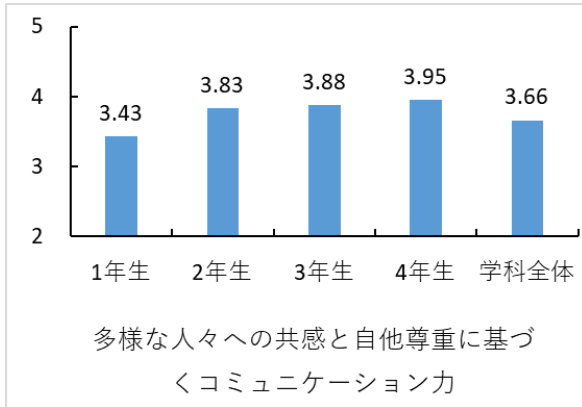
(2)個人や社会に役立つテーマを設定し、これまでの学びを活かしながら当事者や関係者とともに課題の解決に取り組むことができる

1. 学んだことを用いて、個人や社会に役立つテーマを考えることができない
2. 1はできるが、テーマをより具体的に明確に設定することができない
3. 学んだことを用いて、個人や社会に役立つテーマを明確に設定できる
4. テーマを明確に設定し、課題の解決まである程度立案することができる
5. 課題解決まで立案することができ、実現のために当事者や関係者と協働できる

学年末の回答者数は1年生58名、2年生6名、3年生8名、4年生41名、学科全体で194名であった。

7項目総じて、学年が上がるにつれ評定値も上がる傾向にあることが確認できた。また、1年次・3年次末において「情報発信力」が、1年次・2年次末において「心理学の学びを行かした社会貢献力」について評定の中央値である3を下回っている(=「できない」側の回答をしている)。2、3年次末については回答数が少ないのでこれらをもって全体の傾向を示すとは言えないものの、これらの2項目も4年次末では評定値の3を超えているため、卒業までにはある程度の能力を身につけたと自己評価していることを確認した。





続いて、2019年度入学生(4年生)、2020年度入学生(3年生)、2021年度入学生(2年生)、2022年度入学生(1年生、入学時の回答者数81名)のそれぞれの入学時から各学年末の評定値をまとめた。上記の学年間比較においても先の結果と同様の傾向が伺え、学年が上がるにつれ評定値が上がっていくことが示された。これまでの結果より、DPに照らした取組は適切であることが示された。

